



国際緑化推進センターの植林活動 (3)

CO₂ 吸収による温暖化防止 林 久 晴

2003年気候変動枠組条約第9回締約国会議(COP9)において、森林吸収源 CDM 事業実施のための細則が確定したのを契機に、国際緑化推進センターの推進する植林協力でも CO₂ 吸収を主目的とする植林協力が進み、平成 23 年 12 月現在までに 7 プロジェクト(インドネシア 2, ベトナム 5)が実施された。その概要は以下のとおりである。

1. 小規模 CDM モデル林～東京木工所の森～

インドネシア西ヌサテンガラ州ロンボック島で株式会社東京木工所のご寄付を得て 2005 年 11 月から 2010 年 3 月に 53ha 植林した。

本プロジェクトは、小規模 CDM 植林(CO₂ 吸収量が年間 8,000 トン以下)の実施手順等が 2004 年の COP10 で決定されたことを受けて、この実施手順に沿った小規模 CDM 植林を推進するためのモデル林を造成することとしたもので、植林技術、地域住民参加の仕組み、バイオマス量の測定方法などを実証する活動が行われた。また、この植林は林野庁補助事業で開始された小規模 CDM 植林モデル林造成地(42ha)と連携して行われ、植林規模の拡大(合計植林面積 95ha)により、より高い実証効果を得る目的があった。

植林対象地は、ロンボック島のリンジャニ火山の裾野で厳しい長い乾季があり、かつ、毎年狩猟や焼き畑のもらい火で繰り返し焼かれるなど、自然的、経済的、社会的条件からみて通常の植林が困難と判断される非森林地を選定するとともに、地元の低所得層の住民の参加を得るなど、小規模 CDM 植林の条件に合致する形で行われた。

その結果、小規模 CDM 植林として認証を得るために必須となるプロジェクト設計書「PDD」モデルを策

定するとともに、本プロジェクトによる CO₂ 予測吸収量は約 47,000 トン(植林面積 95ha の 30 年間の総量)であることを報告した。

しかしながら、インドネシア政府の CMD 事業への取り組みの遅れから正規の CDM 事業に登録されるまでに至らなかった。

2. CO₂ 吸収を主目的とした植林協力

(1) ベターリビング ブルー&グリーンプロジェクト第 1 期及び第 2 期

ベトナムで実施している植林で、第 1 期プロジェクトは 2006 年から 2012 年にタイグエン省ドンハイ県、クオンニン省バチエ県等で百万本植栽(面積 604ha)し、第 2 期は平成 22 年から新たにフエ省フォンディエン県で百万本植栽(面積 480ha)することとして実行中である。

本プロジェクトは、一般財団法人ベターリビングが、ガス関連企業と連携し、BL-bs ガス給湯・暖房機(エネルギー効率が高く、エネルギーの消費削減と CO₂ 排出削減効果の高い家庭用の給湯暖房機)の普及促進によって CO₂ 排出を削減すると同時に、製品の販売普及台数と同数の苗木を植林して CO₂ ガスを吸収し、排出、吸収の両面から地球環境に貢献する取り組みとして実施しているものである。

植栽樹種は、第 1 期ではベトナムの代表的な造林樹種であるアカシアマンギユウム(1,660 本/ha)を、第 2 期では海岸砂地を対象にアカシアクラシカルパ(2,000 本/ha)、アカシアデフィシリス(3,300 本/ha)モクマオウ(5,000 本/ha)を植栽している。

(2) 緑の地球・環境保全の森～グリーンサンタの森～ ベトナムトエンクアン省ハムエン県において、CO₂

Hisaharu Hayashi : JIFPRO's Forestation Activities (3) Forests for Prevention of Global Warming

国際緑化推進センター

この欄の原稿を募集しております。詳細は 25 頁を参照ください。

の吸収、住民生活の向上を目的に、2007年8月～2012年8月に50万本（面積302ha）植林する。

本プロジェクトは、パナソニック株式会社が地球環境改善のためのキャンペーンの一環として、同社のエコ製品1台の販売につき1本の苗木を植栽するものである。本事業は、同社からの受託事業として行われ、植栽樹種はアカシアマンギユウム、ハクモクレンで、2010年までに302haの植栽を完了し現在は保育作業を実施している。

(3) バリ環境と友好の森～デロンギの森～
インドネシアバリ島カラン・アセム県において
2008年10月～12年3月に75ha植栽する。

本プロジェクトは、デロンギ・ジャパン株式会社が同社の社会貢献活動の一環としてCO₂吸収による地球環境の改善、地元住民の生活向上を目的として行う植林協力である。

植栽樹種は、ユーカリプタスアルバ、プスタ（ヒメツバキ）で、植栽は2010年までに75ha全て完了したが、2010年植栽直後の例年になく長期乾燥の影響で大量の植栽苗木が枯死したため2011年に補植を行って、現在は75haの植林地を確保している。この補植によって生じた保育作業が後年にずれ込むこと等もあってプロジェクトを1年間延長することとしている。

(4) クォンニン省における環境とコミュニティの森～
日本森林林業振興会の森～

ベトナムバンドン県及びバチエ県において、CO₂吸収による地球環境改善、住民生活の向上を目的に2009年11月～2016年12月に400ha植林する。

本プロジェクトは、日本国内において広範な領域に

亘る森林・林業関連活動を展開している（財団法人）日本森林林業振興会が、社会貢献活動の一環として行う熱帯林造成で、同振興会の受託事業として実施している。

5年間にわたって毎年80haづつ植林する計画で、これまでに160haの植林を完了した。植栽樹種はアカシアマンギユウムで良好な成育を示している。

(5) 環境と友好の森～グリーンフレームプロジェクト～
ベトナムバックザン州ルックナン県において、CO₂の吸収、地域環境の改善、住民生活の向上を目的に、2011年4月～2014年3月に104ha（173千本）の植林をする。

本プロジェクトは、読売新聞社が熱帯林の保全造成による地球環境の改善を目的とした広報活動（「グリーンフレーム」プロジェクト）を企画・実施し、賛同する28企業・団体等から寄せられた広告代金の一部を造林資金にして行うもので、植栽樹種はアカシアマンギユウムである。植栽は104haがすでに終了し現在保育作業を実施している。

以上のCO₂吸収を主目的にするプロジェクトは、比較的植林規模が大きいものが多く、いずれも経済的・社会的に発展が遅れている貧困な農山村地域で実施されており、地域住民の生活向上については民生安定にも貢献し、かつ水源涵養など地域環境の改善にも大きな役割を果たしている。

3. CO₂ 予測吸収量について

上記プロジェクトのうち、(1)及び(4)については、夫々の寄付者、委託者からの委託を受けて当センターが当該プロジェクト植林地でCO₂吸収予測に係る調査を行い、その調査結果をもとに、当センターに設置された専門家による「CO₂吸収量検証委員会」（委員長 森川 靖早稲田大学教授）にCO₂予測吸収量の検証を依頼して、最終的に国際緑化推進センターとして認証した（写真1）。

その結果、年間のCO₂予測吸収量は、第1期B&Gプロジェクトは20,200トン、第2期B&Gプロジェクトは11,200トンで合計31,400トン、森林林業振興会の森は、12,400トンであると認証された。

これを日本の一世帯当たり年間CO₂排出量約4,852kg CO₂と対比してみると、夫々6,470世帯、2,560世帯分のCO₂排出量を吸収していることとなる。

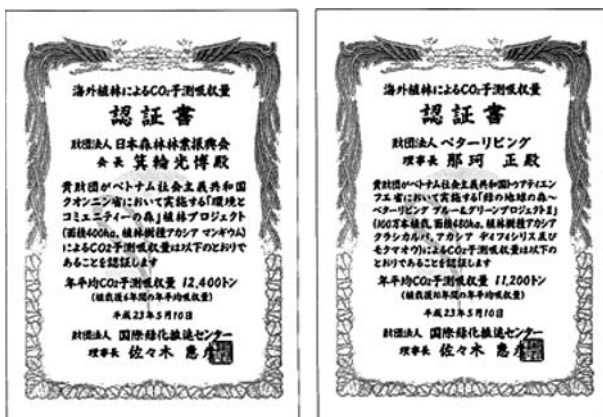


写真1 CO₂＝吸収量認定書
（左：日本森林林業振興会、右ベターリビング）

購読申込書

「海外の森林と林業」を 申し込みます。 開始年度：

(ふりがな)

購読者氏名：

〒

購読者住所：

電話番号：

雑誌送付先住所（上記住所と異なるとき）

〒

宛先人氏名：

送付先住所：

記

★購読契約内容

1口 年額 2,500 円（「海外の森林と林業」3冊 及び「緑の地球」4冊）

購読契約は会計年度毎（4月から翌年3月まで）、継続の時は申込書不要。

「海外の森林と林業」は6月、9月、1月発行

「緑の地球」は6月、9月、1月、3月発行

購読料を1年間滞納された場合、契約は自動解除となります。

★送金先

下記銀行口座又は郵便振替にて、ご送金ください。

振込先銀行：三井住友銀行 小石川支店（店番号 813）

普通口座 2527408

名義人 財団法人 国際緑化推進センター

郵便振替口座： 00160-5-139657

名義人 財団法人 国際緑化推進センター

★申し込み問合せ先

財団法人 国際緑化推進センター 瀬川宗生

〒112-0004 東京都文京区後楽1-7-12 林友ビル3階

Tel：03-5689-3450 Fax：03-5689-3360

e-mail：jifpro@jifpro.or.jp（表題を「海外の森林と林業」購読 と明記ください。）

お詫びと訂正

本誌 No 82 号（2011 年 9 月）の“インドネシアにおけるユーカリ・ペリータの育種”（44～48 ページ）に誤りがありましたので、お詫びいたしますと共に下記の通り訂正をいたします。

47 ページ右欄 上より 20 行目 （誤）2007 年当時，60 ha のコンセッション

→（正）2007 年当時，60 万 ha のコンセッション